

～ 宮古第一病院 加藤 博 C・E・O にお話しを伺いました ～

答えは世界ではなく、日本人の心の中にあった。

日本古来の和と助け合いの心「大和心」を中心にすれば、
経営も国政も素晴らしいものになっていく。

日本は、世界は、今大きく変わろうとしています。

皆さんもそう感じている方が多いのではないのでしょうか。2011年3月11日の東日本大震災以降、日本人の多くの人々の心の中に意識レベルの大変革が静かに起きているような気がします。今日お話しするのは日本古来の「大和心」についてです。

今は何でこんなに暗いことが多いんだろう、なんで世界中で争いが絶えないんだろう、何で何をやっても今一つ楽しいと感じないんだろう、何で周囲ばかり気にして本音で生きられないんだろう、何をやっても上手くいかないのは何故なんだろう、この社会全体を包み込む暗く重い閉鎖感は一切何なんだろう。

今、そんなふう暗く将来に明るい希望を持ってない方が増えているのではないのでしょうか。

でも、僕はあまり心配していません。夜明け前は一番暗いのです。星と月が覇権を争う闇夜も太陽、そう、日の本が天に上がれば全て消え去ります。そうです。日の本の国、日本が真の大和心に目覚めれば世界はどんどん明るくなっていきます。灯台もと暗しと言いますが答えは世界ではなく、日本人の心の中にあったのです。

「ブラックバスの世界」

我々日本人は戦後、その最も大切なことに気付かないように、素晴らしい日本古来の和と助け合いの心「大和心」を忘れてしまうような環境にあったとも言えます。しかし日本経済が高度成長を終え、バブルがはじけて、不景気と閉鎖感が世の中を包み込むようになってから、政府や官僚が何をやっても景気がさっぱり良くならない、一体何故なんだろうと日本人の方々は誰もが不思議に思っているのではないのでしょうか。

アメリカを中心とする欧米諸国が提唱する資本主義、貨幣経済、自由競争、そして、その世界均一化標準を示すグローバルスタンダードですが、その通りにやっても上手くいったのは最初だけ、バブルがはじけて不景気になってからは何をやっても上手くいかない。これは何か違うんじゃないだろうか？少なくとも日本人にはどこか合わないんじゃないのかな？そんな風に感じてきた国民の皆さんも多いはずですが。

実は、僕も色々悩んだり、今までに経験してきたことから僕なりに考えてみると、自由競争や合理主義、資本主義は一見素晴らしい考えに見えるのですが、それだけでは

世界は決して良くならない。良くなるどころか、やればやるほど、世の中は争いと奪い合い、強い者勝ちの世の中になってしまふ。

まるで、日本の湖にブラックバスを放つと、湖に元々生息していた色々な魚が全てブラックバスに食べられて、湖はブラックバスだらけになってしまう。中には強いブラックバスも弱いブラックバスもいるけれど、いずれにしても弱肉強食の世界であり、そこで生き残る為には自分もブラックバスになるしかない。色々な個性のある魚達が共存共栄していたはずの湖が、ブラックバスだけの均一化された弱肉強食化された世界になってしまうのです。

そんな世界は実に殺伐としていてつまらないと思われませんか。ブラックバスだらけになった世界ではいずれブラックバス同士が共食いを始めます。最後は全て滅んでしまうでしょう。そんな湖にセーフティネットを張って仮に弱い魚達を保護したとしても、保護された魚達はもはや生きる希望もやる気も無くしてしまい、網の中から出る気になりません。セーフティネットから出るには自分もブラックバスになって、自分より弱い魚を食べねばならないからです。そんな勇気も自信もありません。

今のはたとえ話ですが、世界が今まさにそんな風になってきていると感じている方も多いのではないのでしょうか。いつまで、ブラックバスの振りをして生きねばならないのか、なぜ共存共栄の、争いや奪い合いの無い、そう、強いものも弱いものも、大きいものも小さいものも、長いものも短いものも、どんな個性のものも、みんな仲良く楽しく共存共栄できないのだろうか、実は日本人の多くの方がそう思われているのではないのでしょうか。

このように、残念ながら、資本主義、自由競争、合理主義だけでは、実際はその通りにやっていると、意外なことに他の人々を、周囲の誰かを、他の企業を、他の国を踏み台にしない限り、いずれ立ち行かなくなるものなのです。

「否定せず、水に流し、許し、感謝し合い、助け合う心を復活させる」

では、どうすれば良いかと言うと、実は日本人の心の奥底にその答えがあるのです。

日本人ってとてもいいなあっていつも思うのは、何よりも許せる心、悪い事を忘れることが出来る心、他人や他国からされた悪い

事もいつの間にか水に流して忘れてあげることができる心があるところです。

原爆を2発も民間人の生活していると真ん中に落とされても、あまり他国を恨んでいない、とてもとても辛くて悲しい事だけれど、そのことで他国の人をそんなに恨んだりしない。

そんな民族は世界広しと言えど、そうそういるものじゃありません。つまり元々日本人は懐がとっても広いんです。たとえ、外から悪いものや悪い考えが日本に入ってきて、長く日本にいううちにいつの間にかそれが良いものになってしまう。悪いものを叩き潰したり、否定したりせずに良い部分をどんどん引き出して、いつの間にか悪いものを良いものに変えてしまう。つまり、悪いものも生かしてしまうような力が元々日本には、日本人にはあるのです。

これはとても大切な事で、たとえ悪いものであったとしても、それを真向から叩き潰したり、力にものを言わせて無理やり良いものに変えようとする、意外なことに、物事は良くなるどころか、どんどん悪くなっていくことが多いのです。これは叩き潰された方が、それを恨みに思っやり返すことにより憎しみの連鎖となるからです。つまり、悪いものは叩き潰すのではなく、抱きかかえ、抱き寄せ、自ら改心させないと決して無くなることはありません。叩き潰すこと自体が悪と言えるものだからです。

日本古来のこの心は分かりやすく言えば、「おもてなしの心」であり、「和と助け合いの心」であり、「おかげさま」の心であり、すなわち日本古来の「大和心」と言えるものなのです。このように、なんの目に見える得があるわけではないのに、人について親切に「おもてなし」してしまう、人に「おかげさま」と感謝してしまう、困った人がいるとつい助けたくなくなってしまふ、ごく自然に決して建前ではなく本音でそうできてしまうのです。この天から与えられたとも言える素晴らしい才能「大和心」を、もし、各々の日本人が各々の個性に合わせた天職の分野で、自由自在に思う存分に発揮できたら、世の中の様々な争いや、あらゆる不幸な出来事など、ほとんど無くなってしまふのではないかと思える程です。少し日本人をほめすぎたかもしれませんが、この素晴らしい才能「大和心」を今こそ日本のために世界のために役立てるべきです。

欧米諸国がリードしてきた資本主義、貨幣経済、自由競争により、とても速やかに効率よく物質文明を発展させることができ

ました。しかし、ここにきて明らかに行き詰まってきています。弱肉強食の物質偏重のこれらの考えだけでは世の中の中心はブラックバスだらけになってしまい、後はもう共食いか奪い合いしかないような状態に近づいてきていると言っても過言ではないでしょう。

その理由は、そこに「大和心」が抜けているからです。だからこそ、今こそ日本古来の「大和心」が大切になってきているのです。

つまり、欧米諸国が中心になってお金の力で作り上げてくれた、発展させてくれた物質文明を決して否定することなく、無駄にすることなく、その素晴らしいシステムをそのままに、その素晴らしい恩恵に感謝しつつ、逆に今までの物質偏重や弱肉強食の考え方によって世界に生み出された歴史上の全ての悪い事件や酷い仕打ち、悲惨な出来事には各々充分反省した上で出来るだけ許してやり、お互いにもう全て水に流して、そこに日本古来の「大和心」を合体させる。

欧米が中心になって作り上げた物質文明に日本古来の「大和心」という魂を入れることによって、これから世界は素晴らしいものになっていくのです。

世界の夜明けが近づいて来ています。その鍵を握るのはまさに日本古来の和と助け合いの心「大和心」だと確信しています。

もうそろそろ、憎しみの連鎖や奪い合いの世界は終わりにしましょう。

みんなで手を取り合って、肩を組み合っ、誰もが楽しい共存共栄の弥栄(いやさか)の世の中を実現しましょう。国民の皆様が「大和心」に真に目覚めれば決して不可能ではありません。



医師／加藤 博

宮古第一病院

岩手県宮古市保久田8-37 TEL 0193-62-3737